

谷口ゼミ活動報告

—岩付城と岩付太田氏見学会—

【日程】

2026年6月6日（土）

【場所】

埼玉県さいたま市岩槻区

【参加者】

3年生：高橋紗香・平井菜奈・若林大雅

4年生：中山來・小川埜々香・黒岩鈴香・谷本遥・中村知優・丹羽桃子

卒業生：竹内一葉・中程信志郎・前田響・森野裕成

【概要】

青山学院大学文学部史学科日本中世史ゼミ（谷口ゼミ）では、定期的に学外授業として日本中世に関連する地域でフィールドワークを行っている。今回は埼玉県さいたま市岩槻区を訪れ、岩槻城跡やその周辺地域の見学を行った。当日は原口様、黒田様、関様のご案内や、青木先生のご講義のもと、岩槻城址公園をはじめ、城下町、宿場町、そして人形のまちへと発展した岩槻地域を巡った。谷口ゼミの3年生3名、4年生6名、卒業生4名の計13名が参加し、岩槻城を中心とした地域社会の形成や、現在まで受け継がれる歴史と文化について理解を深めるとともに、地元の人にも十分に知られていない史実を広めていくことの必要性を学んだ。

【見学コース】

①集合（岩槻駅）→②「人形の東玉」岩槻総本店見学→③太平山芳林寺→④八雲神社→⑤加倉仏眼山浄国寺→⑥岩槻城大構跡→⑦岩槻大師彌勒密寺→⑧岩槻郷土資料館→⑨水野書店 ブックス&カフェ maomao→⑩岩槻藩校遷喬館→⑪太田道灌像（人形博物館）→⑫洪江交差点→⑬時の鐘→⑭大手門跡→⑮休憩（市民会館いわつき）→⑯岩槻城址公園→⑰元荒川→⑱合城山知楽院→元浅間神社→⑲富士浅間神社→⑳解散→㉑食事

①集合（岩槻駅）

今回のフィールドワークの目的地である岩槻は、さいたま市東部に位置し、古代には海岸線に近い地域であった。元荒川や綾瀬川などの水系に恵まれたこの地域には古くから人々が居住し、真福寺貝塚をはじめとする縄文時代の遺跡が数多く残されている。真福寺貝塚から出土した「みみずく土偶」は国の重要文化財に指定されており、岩槻が古代から人々の生活の拠点であったことを示している。

また、フィールドワークの集合場所となった東武アーバンパークライン岩槻駅には、歴史的な地域性と無人決済のコンビニが導入されるなど最新技術を取り入れた利便性の高い都市機能の共存という一つの街の理想的な姿を垣間見た気がした。

今回のフィールドワークは晴天に恵まれ、まさに旅の吉兆を感じさせる好スタートとなった。

②「人形の東玉」岩槻総本店

我々が最初に訪れたのは「東玉総本店」である。

東玉は嘉永5年（1852）の創業以来、170年以上にわたり人形づくりの伝統技術と精神を受け継いできた老舗である。「東玉」の名称は、初代戸塚隆軒が御殿医のかたわらで趣味として製作していた人形を藩主に献上した際、「東国における人形づくりの王さま」という意味を込めて「東王」の名を賜ったことに由来する。しかし、「王」の字は恐れ多いとして点を加え、「東玉」と号したという。

また、岩槻は現在「人形のまち」として知られているが、その背景や地域の歴史について、会長の戸塚隆様から貴重なお話を伺った。



▲人形の東玉



▲東玉の内部

まず、岩槻と人形の歴史についてのお話をいただいた。江戸時代、三代将軍徳川家光による日光東照宮の造営に伴い、江戸と日光を結ぶ日光御成道が整備されると、岩槻は宿場町として発展した。その際に、日光東照宮の造営や修築のため全国から集められた工匠たちは、岩槻を宿場町として利用し、岩槻の良質な桐に着目。その一部は当地に定住した。そして桐タンスなどの木工品を製作するようになり、その過程で生じる桐粉（おがくず）を利用した人形製作が発展したとされる。こうした歴史的背景から、岩槻は現在も人形産業の中心地として知られており、地域文化を象徴する存在となっている。

岩槻で製作される人形は、衣装着人形と木目込人形の二種類に分類される。衣装着人形は藁を縛り、固めた束に和紙を貼り、土台を付けてから衣装付けを行う手法で作られ、衣装には西陣織などの高級織物が用いられ、豪華な外観が特徴である。二つ目の木目込人形では、まず、木や粘土で人形の原型を作り、その型にのりで固めた桐の粉を詰めて形成する。乾燥後に白いご粉を塗り、彫刻刀で筋を付けた部分へ布を埋め込むことで衣装を表現する技法が採られている。



▲岩槻人形



▲五月人形

そして、会長からは人形作り以外にも興味深いお話を伺った。一つ目は、『西遊記』に登場する三蔵法師の遺骨の一部が岩槻慈恩寺の玄奘塔に安置されているというお話。二つ目は、安永 9 (1780) 年に岩槻藩領であった現在の千葉県南房総市千倉沖で遭難した元順号 (清国の商船) を救ったというお話であった。会長は明治 23 (1890) 年に和歌山県で起こったエルトゥール号遭難事件と比較すると、岩槻藩の遭難救護の認知度が低いことを問題点に挙げていた。歴史的なつながりが、両国の外交関係として良好に働いている日本とトルコの関係のように、南京船遭難事件の認知度を高めていくことが、混迷を極める現在の日中関係の解決の一つの糸口となるのかもしれない。

③大平山芳林寺

東玉を後にして少し歩くと、太田道灌騎馬像が見えてくる。この像は、平成 19 (2007) 年に岩槻城築城 550 年を記念して建立され、江戸城の方向を向いているという。ここで太田氏資について説明を受けた後、芳林寺境内に入った。当寺は、かつて比企郡松山にあった地蔵寺を、岩槻城主太田資正が現在地へ移転したとされる。その後、資正の嫡男氏資が母・芳林妙春尼の追善供養のため寺号を芳林寺と改めた。境内には芳林妙春尼をはじめ、多くの合戦で亡くなった将兵や檀家先祖の霊が供養されている。太田氏資宝篋印塔の前で手を合わせ、次の目的地へ向かった。



▲太田道灌騎馬像



▲宝篋印塔

④八雲神社

芳林寺から3分ほど歩くと、八雲神社に到着した。八雲神社は、太田氏の家臣であった勝田佐渡守が永禄3(1560)年正月に市を開設した際、その守護神として鎮座したと伝えられている。市を開く際には、最初に「市場祭文」を読み上げることが習わしであったという。

当時は、市宿通りの中央に鎮座し、近隣からの買物客で大賑いの場町として栄えていたが、明治21(1888)年に現在地に移築した。



▲八雲神社

⑤加倉仏眼山浄国寺

八雲神社を後にし、森を抜け、岩槻みどり幼稚園の脇を通り過ぎると、浄国寺に到着した。

浄国寺は鴻巣勝願寺の総管清庵が、その隠居寺として天正 15（1587）年に創建したとされている。開基は岩槻城主太田氏房で、天正 19（1591）年には徳川家康から寺領 50 石を寄進された。関東十八檀林の一つである。



岩槻は初期キリスト者の拠点として利用された歴史を持ち、敷地内には当時の遺跡が残っている。また、浄国寺には埼玉県指定有形文化財の浄国寺日鑑七十七冊、さいたま市指定有形文化財の仏眼舎利宝塔、さいたま市指定史跡の

岩槻藩主阿部家の墓があり、地域の歴史や文化を伝える貴重な文化財が多く残されている。

▲当時の墓石

⑥岩槻城大構跡

大構とは、岩槻城とその城下町を一体的に囲んでいた防御施設で、一般には惣構と呼ばれているものである。外側に堀、内側に土塁を築き、城だけでなく城下町全体を敵の攻撃から守る役割を果たしている。築造されたのは戦国時代末期の 1580 年代後半と考えられている。岩槻城には 8km ほどの大構が巡らされていたとされている（小田原城の土塁は約 9km である）。実際に歩いたのは加倉口から彌勒密寺までの数百メートルだったが、現代の街並みの中にも大構の痕跡が残されており、その歴史的意義を感じることができた。

⑦岩槻大師彌勒密寺

岩槻大師は、宝亀 5（774）年に創建されたと伝わる真言宗の古刹である。鎌倉時代には北条氏の崇敬を受け、江戸時代には江戸と日光東照宮を護る仏として「北向不動」の名で信仰を集めたとされている。

大きな提灯が掛かる山門をくぐり、御本尊を参拝した後、北条重時が寄進したとされる梵鐘を拝観した。境内には地藏菩薩や童子像などが見られた。なかでも安産・子育てを祈願した人形大師の像が印象的であり、「人形のまち」として知られる岩槻の特色が感じられた。

▶人形大師



⑧岩槻郷土資料館

岩槻城に関する資料や出土物、生活道具などの展示を観覧し、岩槻の歴史や当時の人々の暮らしについて理解を深めた。



▲岩槻郷土資料館 外観

建物は昭和 57（1982）年に岩槻警察署旧庁舎を利用して開館されたもので、アーチ状の窓や丸柱など建築当初の特徴が今も残されていた。「署長室」や「巡査詰所」といったプレートからは、警察署として使用されていた当時の様子を想像することができた。

⑨水野書店 ブックス&カフェ maomao

全員でいわつきバーガーセットを食し、自己紹介も交えつつ学年の垣根を越え親睦を深めた。両手で抱えるほど大きいバーガーを谷口先生が誰よりも早く食べ進め、気づけば2つめを完食していた。食後、同スペースで青木文彦先生から日光道中、岩付城下、大構のお話をいただいた。大手門の高低差など、この後の散策にむけて大変勉強になりました。感謝申し上げます。

⑩岩槻藩校遷喬館

児玉南柯が開いた私塾で後には藩校として使われていた。南柯は前述の元順号の漂着事件の対応に尽力した人物である。平成に改修が行われ一部は当時のまま用いられている。屋根は茅と藁が併用されており、雨と重量どちらにも対策をしているのだそうだ。畳を踏みしめ心地よさを覚えながら歴史を感じた。



▲岩槻藩校遷喬館 外観



▲内観

⑪太田道灌像（人形博物館）

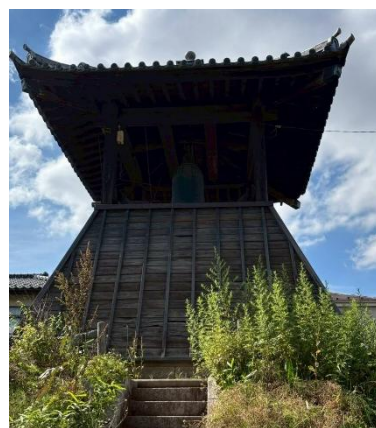


▲岩槻町役場跡記念碑、太田道灌像

「人形のまち」として知られる岩槻に令和2（2020）年に開かれた人形博物館の敷地内に、太田道灌像が立っている。もともと岩槻市役所があった土地で、日光御成道沿いという岩槻の要所に位置している。そのような重要な場所に像があるのを見て、太田道灌が今も地元の人たちにとっての誇りなのだと再認識した。

⑫時の鐘

太田道灌の像を過ぎ、6分ほど歩いて市の指定有形文化財にも登録されている時の鐘に到着した。この鐘は寛文11（1671）年に岩槻藩主阿部正春が設置し、享保5（1720）年に岩槻藩主永井直陳により改修されたものである。鐘と幹回り約4.7m、樹齢約130年ある巨木に驚かされた。



▶時の鐘

⑬大手門跡

大手門跡付近は、土地に高低差があることがよくわかる場所であった。現在目立って残っているものはなかったが、高低差を感じることで、大手門が立っていた当時や岩槻城に思いをめぐらせることができる場所だと感じた。

⑭休憩（市民会館いわつき）

市民会館の一室を「青山学院大学巡検」として貸していただき、休憩をとった。地図を見ながら、この後どこへ向かうのかを確認し、予定通りのルート进行することが決定した。

⑮岩槻城址公園（新曲輪・鍛冶曲輪跡）



大手門を過ぎると三の丸があり、その奥に本丸がある。主郭の南側にあるのが新曲輪跡と鍛冶曲輪跡であり、岩槻城址公園として整備されている。

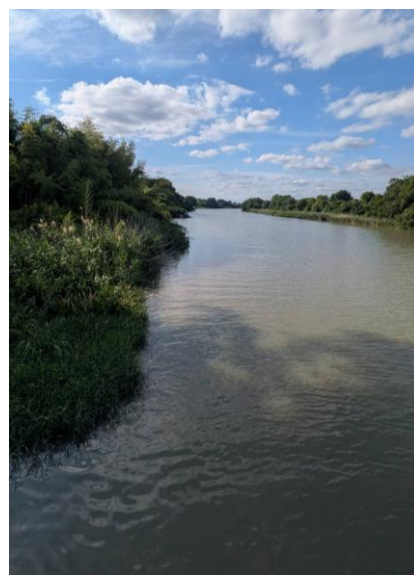
新曲輪跡や鍛冶曲輪跡は戦国時代末に北条氏によって造られた出丸で、土塁・空堀・馬出など中世城郭の遺構が残されている。近年の発掘調査では、北条氏が得意とした障子堀が発見された。

◀白鷺城址碑

⑯元荒川

新曲輪橋に向かい元荒川を見ることに。新曲輪橋には岩槻が人形のまちであることから人形の小さな銅像が置かれていた。元荒川という名前は荒川の本流であったことを指し示している。新曲輪橋に行き川の横幅の広さを実感した。この元荒川は江戸時代の頃に伊奈忠次によって荒川を利根川から分離させる工事を行った。実際に川を見に橋に行くと橋の長さは、30~40mはありそうな幅だった。

▶新曲輪橋の上から



⑰合城山知楽院

合城山知楽院は太田氏、特に岩槻の地で活動していた資頼（知楽斎、号は道可）が自身の隠居所として開基した。開山は太田資家（養竹院殿）の弟とされる叔悦禅憚（養竹院開山）の弟子の奇文禅才である。岩槻城主の太田資頼の供養塔を見学させていただくことができた。

⑱富士浅間神社

富士浅間神社は戦国時代の岩槻城主・太田氏が、城下で最も標高の高いこの地を選んで社殿を造営した。駿河国（静岡県）の富士山頂から神霊を勧請したのが始まりとされている。



御祭神は木花開姫命であり、富士山の女神として「安産・子育ての守護神」と広く信仰されている。この神社が建てられたことから、周辺の地名が「富士宿（富士宿町）」と名付けられた。この地では古くから定期的に市が開かれていたそうだ。

▲富士浅間神社

⑲解散

富士浅間神社の近くのバス停からバスに乗って岩槻駅に向かう予定だったが、うまく時間が噛み合わず歩いて向かうことにした。30分ほどの道中だったが、コンビニへ寄ったり、次週以降のゼミの発表について相談しながら歩いたりなど各々で岩槻駅を目指していった。

ご案内してくださった皆様から駅で一言ずついただいたあとに解散した。

⑳食事

解散後は、学部生・卒業生・谷口先生を含む9名で駅前のイタリアンレストランに移動し、1時間ほど食事を共にした。食事の席では、当日のフィールドワークの感想をはじめ、研修旅行や卒業論文、就職先の話などについて語り合い、終始和やかな時間を過ごした。フィールドワークを通じてある程度交流を深めていたが、食事の場では普段の授業では得られない貴重な話を聞くことができ、参加者同士の親睦をさらに深める機会となった。

【散策を終えての感想】

中山（4年生）

今回のフィールドワークでは、原口さんや青木先生をはじめ、多くの方々のお話を伺いながら岩槻の歴史を学んだ。私はこれまで岩槻に対して、戦国期の岩槻城や太田氏を中心とした軍事的な側面の印象を強く持っていた。しかし、現地での見学を通じて、宿場町としての発展や人形産業の形成など、多面的な歴史を有する地域であると感じた。今回の巡検で、特に印象は岩槻城跡の見学である。訪れるまでは、一般的な平城という認識であったが、実際に現地を歩くことで、「大構え」を備えた大規模な城郭であったことを実感した。史料や文献から得られる情報だけでは把握しきれない地形や距離感、城郭の規模を身をもって感じることができ、フィールドワークの重要性を再確認した。

小川（4年生）

私は、今回初めて岩槻を訪れ、その地についてほとんど知識がありませんでした。しかし、「宿町」や「武家屋敷」などと刻まれた石碑を見たり、岩槻城址公園の堀を実際に歩いたりしたことで、日光御成道の宿場町として栄えた岩槻の歴史を身近に感じることができました。一方で、大規模な城郭を持っていた岩槻城も、明治時代の廃城によってその姿の大部分が失われていることには少し寂しさを感じました。また、お話を伺う中で、地域の方々が岩槻の歴史や文化を大切に、後世へ伝えていこうとしている姿が印象に残りました。最後に、今回の学外授業に携わってくださったすべての方々に感謝申し上げます。

黒岩（4年生）

私はさいたま市民でありながら、これまで岩槻を訪れたことがなく、雛人形のまちというイメージはあったものの、その歴史についてはほとんど知りませんでした。今回のフィールドワークは、そんな岩槻の新たな一面に触れる貴重な機会となりました。フィールドワークを通して、岩槻城の名残が現在の街並みに受け継がれていることや、地形にも歴史的な意味があることを学びました。こうした発見は、実際に現地を歩いたからこそ得られたものだと思います。また、今回の経験は、自分の住む地域の歴史にも目を向けるきっかけとなりました。普段何気なく見ている街並みの中にも、歴史の痕跡が残されているのかもしれないと考える様になり、大変貴重な学びの機会となりました。最後に、今回のフィールドワークに関わってくださった皆様に心より御礼申し上げます。

谷本（4年生）

今回初めて岩槻を訪れ、その歴史に直接触れることができました。なかでも彌勒密寺では、その土地ならではの特色が取り入れられており、歴史や文化が現在にも受け継がれていることが印象的でした。また、資料や史跡を実際に見学したことで、一つひとつの史料や痕跡が過去を復元するうえで重要な手がかりとなることを改めて認識しました。さらに、現地を

歩くなかで、身近な場所にも多様な歴史や文化が積み重ねられていることに気付かされました。今後も積極的に各地の史跡や文化財を訪れ、現地に足を運ぶことで得られる学びを大切にしていきたいと思います。最後に、今回のフィールドワークに関わってくださった皆様に心より感謝申し上げます。

中村（4年生）

この度は貴重な機会をいただきありがとうございました。岩槻を訪れること自体が初めてのことで、土地について学ぶきっかけになりましたし、三蔵法師や元順号などの普段の旅行では焦点を当てることがないだろう、あまり知られていない歴史について触れることもできました。これから太田氏や岩槻について広めるきっかけに自らがなっていきたいです。今回の旅に関わってくださった皆様に心より御礼申し上げます。

丹羽（4年生）

岩槻という名前は知っていたものの行く機会がなかったため、今回ゼミの皆さんと訪れることができ、大変有意義な経験になりました。ガイドをしてくださった原口さんを始め、岩槻の方々はとても暖かく受け入れてくださり、地元の方々が誇りを持っている素敵な街なのだと実感しました。なかでも個人的に印象に残ったのは、浄国寺にある墓石です。岩槻は、元和の大殉教で知られる原主水の潜伏地であり、キリシタンの集合場所であったことを学びました。また墓石に刻まれていた十字紋を実際に見て、当時の人々の無念さや必死に岩槻の地で生きていた姿に思いを馳せました。現地に足を運ばなければ分からないことが多くあると実感し、今回参加して多くの学びを得られたことを、嬉しく思います。

高橋（3年生）

岩槻は自宅から車で1時間程度の場所でアクセスしやすいのですが、岩槻について知っていることはほぼなく、訪れたことはありませんでした。もし私が1人で岩槻に行くとしたら、岩槻城址公園に行ってしまうと思います。今回原口さんのガイドのおかげで、史料を見るだけではわからない、大構の規模感や土地の高低差を知ることができました。また、地元の人にもあまり知られていない話を多く聞くことができ、それらの知識を後世に残していくためには、史跡の保護や周知が必要だと実感しました。今回のフィールドワークに関わってくださった皆様に、心より御礼申し上げます。

平井（3年生）

初めてこのフィールドワークに参加し、岩槻城と城下町周辺の地形や岩槻という地域がどういったもので有名なのか、その地形を生かしどのように過ごしていたかなどの痕跡を歩き、見て知るにより浅い理解ではあると思うが岩槻という地域について知れたように感じました。特に印象に残った箇所は浄国寺にあるお墓です。墓が横一列に並び、石で作

られた墓には丸に十字が引いてあり、島津家の家紋のような形の印が刻まれていました。自分が気にしていないだけで歴史とかかわりがある土地にはこういったものが残されているということを実感しました。今回携わってくださったガイドさんからもお話をたくさん聞くことができ、とても充実した岩槻巡検になりました。一日お付き合いいただき、本当にありがとうございました。

若林（3年生）

私はこれまでの基礎演習などでは中世の京都について着目していましたが、同時代における関東の情勢にはあまり触れてこなかったため、非常に勉強になる部分が多かったと思います。私が特に印象に残った箇所は岩槻郷土資料館でした。資料館で見た「後醍醐天皇綸旨」のレプリカは、中世という古い時代にもかかわらず、履修中の史料講読で読んでいる近代の文書よりもくずし字が読みやすかったのでかなり意外に感じられました。これからは史料の精読に加え、フィールドワークの大切さも胸に刻みながら研究に邁進していこうと思います。最後に今回のゼミ学外授業に携わった全ての方々に心から御礼申し上げます。

竹内（卒業生）

一年以上ぶりにフィールドワークに参加させていただきました。一つひとつのスポットに見どころはたくさんありましたが、とくに岩槻の人々の文化として深く根付き、また現代にわたるまで産業として続いている人形文化は、とても興味深く感じました。時間がある時に、なぜ岩槻が人形のまちとして有名になっていったかも自分の目で探してみたいと思います。また、岩槻城の壮大な遺構を、歩いて体感するというのも大変刺激的な学びになりました。一見普通の坂に見えても、実はお堀の名残であるというのは、歩いてこの目で体験しないと実感できない歴史の深みだと感じました。貴重な学びの機会に同行させていただき、本当にありがとうございました。

中程（卒業生）

今回、OBとして巡検に参加させていただきました。最初に訪れた「人形の東玉 総本店」では、お店の方に加え、現地のガイド会の皆さまによる丁寧な解説を伺うことができ、人形のまちと呼ばれるようになった歴史的背景への理解を深めることができました。また、昼食で訪れた「水野書店」のブックカフェでは、地域の英雄として親しまれている 太田資正 のトートバッグを購入するなど、岩槻ならではの魅力に触れることができました。さらに、現役生との交流を通じて多くの刺激を受け、在学中とはまた違った視点で巡検を楽しむことができました。卒業後もこうした形で大学や地域とのつながりを持ち続けられる環境に恵まれていることを、改めてありがたく感じた一日でした。

前田（卒業生）

人形作りが盛んな岩槻では、実際に街を歩いても駅前だけではなく、広い範囲で人形の専門店を見かけた。博物館などを含め自治体が伝統工芸を残す、伝える努力をされており、街全体に伝統が息づいていることに魅力を感じた。また地形に関しても、一人で歩いていたらスルーしてしまいそうな、過去の堀の跡など確認することができ、それが現代の岩槻の風景に溶け込んでいるのが印象深かった。普段の旅行でもそのような点に気づけると、更に視野が広がると感じたため、今後の旅にも活かしたい。

森野（卒業生）

この度は、岩付巡検に参加させていただき、誠にありがとうございました。岩付太田氏とその拠点であった岩付城周辺を実際に歩き、太田氏が築いた岩付の街並みが現代まで息づいていることを自らの目で確かめることができました。地図を片手に、中世の岩付の姿を想像しながら歩く時間は、歴史の面白さを改めて実感する貴重な機会となりました。学部生と卒業生が楽しそうに話しているのを見て、歴史を通じて世代を超えた交流が生まれていることを嬉しく感じました。久しぶりに、同期と再会し、一緒に散策ができて楽しかったです。学部生・大学院生・卒業生と世代の垣根を超えた交流が今後とも続いていくことを期待しています。最後に、ご案内・ご同行いただいた皆様に、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

【集合写真】



▲岩槻城 城門前にて



▲岩槻城 白鶴城址碑前にて

この度は、貴重な機会をいただきありがとうございます。
谷口ゼミ在學生・卒業生一同、心より感謝申し上げます。

青山学院大学
文学部史学科日本中世史（谷口ゼミ）
在學生・卒業生 一同